



(問①)東日本大震災から多くのことを学び、教訓といていかななくてはならない。今、地域ケアに基づいた支え合う社会の確立が必要になる。その始まりは地域における人と人との絆づくりであり、共助の精神です。そこで1点目の質問として、本市の地域人口の推移、高齢者数の見通しは？また、認知症高齢者数・高齢者単独、あるいは夫婦のみ世帯数の推移、要介護支援認定者の推移、さらに医療機関の療養病床について伺う。

(福祉部長)高齢者数の見通しはH23年度が1万5,994名で、H26年度には1万7,943名で1,949名増える見込み。高齢化率ではH23年度が24.02%、H26年度には27.66%、3.64%の増がみこまれる。次に、要介護認定者は、2,002人が2,405人との見込みである。それから、独居及び高齢者世帯数の推移は、H18年とH22年の比較で申し上げる。H18年が965人、H22年には1,345人と380人の増加。高齢者世帯については、H18年に1,372世帯H22年には1,965世帯で、593世帯増えている。さらに認知症高齢者については、認知症自立度からの推定で561名の方と思われる。療養型の施設については、海部・津島圏で2施設あり、定員は214名になる。

(問②)市として自主防災会の取り組み・見直し等、どのような考え方で進めるのか？

(総務部長)日本の文化である互助の考え方から、この地域における自主防災会の役割というのは大変重要だととらえ、100%設立に向けて取り組んでいる。さらに避難経路については、地域の実情に精通した方をまじえ今後、自主防災会の中で携わっていく方の意識改革も含め、より一層啓蒙を進めていく。

(消防長)自主防災会の代表者と訓練内容を事前に打ち合わせを実施しており、消火器の取り扱い・応急手当の訓練・煙体験等、16種類の訓練内容から要望に応じて行う。

(問③)小・中学校を含む避難所の整備および防災備蓄品の持ち方を伺う。

(教育長)小・中学校のトイレの関係ですが、一階に多目的トイレの設置があるのは、立田北部・南部小、八輪小・立田中の野外トイレ、佐織中南館各階と野外の5校9ヶ所になります。

(総務部長)防災備蓄品としては、防災計画に一覧としてけいさいしてある。備蓄品とくに食料の分散化は今後の課題である。

(問④)本年設立予定の「観光協会」について伺いたい。

(経済建設部長)本年8月に設立予定で、設立準備委員会を3回おこなった。会員の募集状況としては、6月10日現在で法人・個人合わせて198会員となっている。具体的な内容については、設立後、商工会等みなさんと検討してまいりたい。



★去る6月19日(日)川淵コミュニティセンターにて「第1回の市政報告会」を行い、毎議会5回の一般質問・70件を超える市民相談等を報告しました。

※ ホームページを開設しています。

<http://www.komei.or.jp/km/aisai-takemura-hitoshi/>

